

## 海域の概要

本湾は、熊野灘に面した南島町に存在する湾で、神前湾同様、リアス式海岸の入り江が連続しています。湾内にかかる親子大橋は、南島町のシンボルとなっています。



## Specification

### 諸元

湾口幅：3 2 5 k m

面積：1 2.2 4 k m<sup>2</sup>

湾内最大水深：5 8 m

湾口最大水深：5 8 m

閉鎖度指標：1 0 8

備考：なし

## Location

### 範囲または位置

三重県度会郡南島町志戸ノ鼻と同町見江島南端を結ぶ線、同島北端と度会郡南島町鵜倉半島南端を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



## 環境

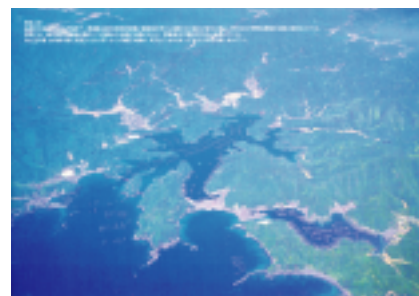
贄湾が属する熊野灘沿岸は、黒潮の影響と山地が海岸まで迫っている地形条件を反映して、本州の中でも最も高温多雨な地域で、南四国などと同様に南海型気候区に属します。湾内には、道方川、大江川などの河川が流入して、水質環境に影響を及ぼしています

## 自然

贄湾は、リアス式特有の屈曲が多い、複雑な海岸線の景観が特徴的で、伊勢志摩国立公園に指定されています。

岩礁部にはホンダワラ類、アラメ・カジメ・ヒロメ等の大型褐藻類の藻場が、海岸線に沿って分布する他、湾奥の道方川河口には礫質の干潟が形成されています。また、様々な魚類の宝庫としても知られており、キス・ボラ・ガッチョ（メゴチ）・アナゴ・チヌ（クロダイ）・アコウ・小グレ（メジナ）・ハゼ・アジ・メバル・ウミタナゴ・チャリコ・クマノミ・ミノカサゴ・イセエビなどを求め、フィッシングやダイビングで賑わっています。

道方の海跡湖に浮かぶ浮島は県指定天然記念物で、「浮島パークなんとう」として散策路や展望台が整備されています。



上空からみた贄湾

## 文化歴史

南島町は三重県の南部に位置し、南は熊野灘に面し、北方には大台山系の支脈が連なり、美しい自然の景観を形成しています。この地域は、その優れた環境から海の幸が豊富であり、古くは伊勢神宮領として栄えました。伝統風習として、道方では腰にミノをつけての「かんこ踊り」が催されています。



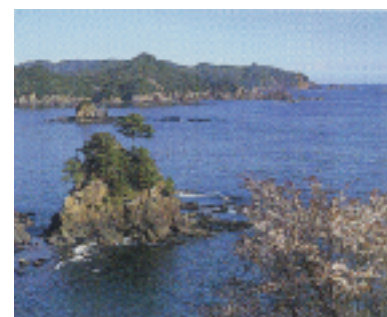
かんこ踊り

## 産業

産業は沿岸・沖合漁業が中心で、各浦々の漁港を拠点として定置網・刺網・一本釣・巻網漁と真珠養殖が行われています。

また湾内ではハマチ・タイの養殖が盛んで、県下有数の漁獲量を誇っています。

観光産業の柱の一つであるフィッシングでは、豊かな海「贄浦湾」の沖合いで四季おりおりの魚釣りが楽しめ、海況次第でマダイ、イサギ、グレの大物が狙えます。



釣り場